



灘区に初めて市バスが走ったのは昭和5年。昭和4年に神戸市に編入され、誕生した灘区。それまで細い道ばかりでしたが、耕地整理、土地区画整理が完了し、道路が整備されていったのにも関わらず、バス路線も増えていきました。最初のバス路線は、現在区役所のある桜口を出発し、大石川～敏馬～三宮～海岸通～新開地～松原～東尻池を経て須磨駅に至る、神戸市を横断するバス。それから70年。灘のバスの歴史を振り返ってのあんなこと、こんなこと。「灘バス豆知識」をお送りいたします。



「下のバス道」ってどこ？

灘区に住んでいると「上のバス道」「下のバス道」という言葉を聞いたことがあるかと思いますが。上のバス道とは現在の2系統が走っている道。下のバス道は山手幹線をさすと思われている方もいると思いますが、正確には「市電道」。下のバス道とは上筒井～大石～灘駅などを結ぶ市バス(下記いにしえの「下のバス道」に行く参照)が走っていた天城通と福住通の境を東西に走る一方通行の道をさします。ご存知でしたか？



戦前の「上のバス道」(上野通)

灘の地名にちなんだバス？

歴代の神戸市の観光バスには、神戸の地名などがつけられました。灘区にちなんだバスは「ろっこう」「まや」「みぬめ」「なだ」。特に昭和26年に登場した「まや号」は美しい流線型で、天井にも窓がつけられ、当時最新鋭のイカしたバスでした。今でも十分カッコいいですね。



まや号



みぬめ号

市バス以外のバス

六甲山に登る阪急登山バス、六甲山と摩耶山を結ぶ六甲摩耶スカイシャトルバス、国道2号を走る阪神国道バスなどがあります。かつては阪神大石駅と摩耶ケーブル下を結ぶ摩耶バスや阪神新在家駅と六甲ケーブル下を結ぶ六甲越有馬鉄道バス、灘駅～摩耶ケーブル下～阪神大石駅を結ぶ六甲山乗合バスなどのバスが運行していました。



六甲ロープウェーと連絡市バス
写真:「神戸市交通局60年史」(神戸市交通局)

いにしえの「下のバス道」に行く

オールド灘区民ならおぼえているかもしれない「下のバス道」(青谷町・王子町～天城通・福住通)。今はバス路線としては使われていませんが、60年ほど前バスに乗っている気分で「下のバス道」を探訪してみました。こんなところをバスが走っていたんですね。



当時の西の始点「上筒井」。原田線を東へ進み、王子動物園の西の道を北へ上がります。当時のバスは、この坂道を上るのは大変だったのではないのでしょうか？

葺合高校の正門前、アーチエリー場あたりで右折。ハインター邸の前を通過していた、王子動物園内を横切る道路を東へ進みます。

天城橋で青谷川を越え、いよいよ「下のバス道」に入ります。現在は一方通行ですが、当時は対面通行。すれ違いが難しそう。

つきあたりを左、さらに右に折れると都賀川に。ここから大石や、篠原小川筋(灘公設市場前)へとバスは走っていました。

なだ だ な

編集 灘区民まちづくり会議
企画運営委員会
発行 灘区役所
〒657-8570
灘区役所まちづくり推進課内
(078) 843-7001(代)

なだだな No.18
2006年10月

灘区ホームページ「i-nada」
<http://www.city.kobe.jp/nada/>

第三火曜は「ちょっと気配り」参加の日
一ちょっとした気配りで
住みよい灘区を一



神戸市広報印刷物登録
平成18年度第182号-2
(広報印刷物規格B-1類)

この広報紙は、再生紙を使用しています。

なだ だ な

灘のまちを知るための
情報誌

2006.10
Vol.
18

編集
発行

灘区民まちづくり会議
企画運営委員会
灘区役所

灘のまち探検隊、
市バスで灘観光。

バスde GO!

